

モンテベルデ作エドワード・ ジェンナーの青銅像

加藤 四郎

第八三回（一九八二年）の本学会総会において、私は、モンテベルデ（Giulio Monteverde, 1837～1917）作のジェンナー（Edward Jenner, 1749～1823）の大理石像に関して、その像に接することができたことと共に、像の由来、変遷につき調査した結果を報告した。本年四月に大阪で開催される第二一回日本医学総会において、一九八〇年の国際保健機構による天然痘根絶宣言を記念する特別展が企画されている。そのシンボルとして、ロンドンのウエルカム財団が所蔵する前述の大理石像と同型のジェンナーの青銅像が、同財団の好意により展示される。また同形のジェンナーの青銅像が、イタリア、ローマの国立近代美術館にあることが知られているが、最近大阪大学理学部芝哲夫教授により確認された。この青銅像についても医学総会において、写真で

紹介されることになっている。これら二つの青銅像に関して、ローマ国立近代美術館のピアントニ（Gianna Piantoni）館長及び日本ウエルカム社ブラッドショー（C.D. Bradshaw）社長を通じて入手した資料につき紹介したい。

モンテベルデが、先ず原型としての石膏像をつくり、更に大理石像を製作して、一八七八年のパリ博覧会に展示した経緯は既に報告した。ローマの青銅像は、その石膏像をもとにして製作されたもので、一九一三年にローマの国立近代美術館が、モンテベルデより購入したものである。一方ウエルカムの青銅像について、ウエルカム財団に至る迄のこの像の変遷は、なお調査中であるが、従来この像の説明文として、「本像を原型として、大理石像がつけられた。」とあったが、その根拠のないこと、この像には、作者の「Giulio Monteverde」の名前と「*Edw. Jenner*」の「ローマ」*Bastionelli* が鑄造した」ということが、彫り込まれていることなどがわかった。

なお、私が、大理石像に接した時に、その説明カードに、「ジェンナーが自分の息子に種痘している像」とイタリア語で記されていることを報告したが、その根拠を明ら

かにすることはできなかった。今回の資料から、モンテペルデ自身が、スマイルズ (Samuel Smiles) 著の "Self Help" のジェンナーの項を読んで感動し、自分の息子として製作したものと見做すべきであることがわかった。私は、わが国に伝えられてきた「ジェンナーは、先ずわが子に牛痘種痘法を試みた。」という物語りは、上述の "Self Help" の訳書である「西国立志編」に由来することを報告したが (日本医史学雑誌第二六卷一号一九八〇年)、モンテペルデのジェンナー像とその説明文が、わが国の物語りの背景の一つをなしていたことも考えられる。

(大阪大学微生物病研究所)

ウトレヒト陸軍軍医学校テキ スト、フレスの解剖書とそ の日本への伝播

○石¹⁾ 田 純 郎

²⁾ ハルム・ボイケルス

明治三年春より一年間岡山藩医学館の教師を勤めたオランダ医師ロイトルが残した解剖学講義録のオリジナルの調査を昨年秋ライデン大学で行った。その結果オリジナルが判明したが、現在迄に日本各地に九種二十冊の同一のオリジナルをもつ講義録・本が保存されていることが判明した。項目や説明の順序と内容、図等をオリジナルを探す手掛りとした。

オリジナルは Joseph Alexander Fles (1819—?) (マッヘルト大学教授) 著 *Handleiding tot de Selschmatig Beschrijvinge Onleedekunde van den Mensch* (以後フレス本と略す。)と判明した。初版は一八五五年、二版は一八六六年に出版された。第二版は七九一頁の印刷本で図表は二四六枚